

遊び(暮らし)ながら考える民主主義のカリキュラム

シモンは六歳です。彼は就学前クラスに通うことに疑問をもっています。「ここに来るのはあんまり面白くないな」と、シモンが言います。「そうなの?」「うん、僕は工作をしているときが一番楽しいんだ」「ここでは工作はできないの?」「だって、最初に二人が工作をして、それから次の二人が工作できるまでにすごく時間がかかるんだもん。次の順番が回ってくるまでに、自分が何をつくってたか忘れちゃうよ」「もし、自分で決められるんだったら、何かできるかな?」「うん」と、シモンははにかんで答えます。「もし、自分で決められるんだったら、壁から工作用の椅子を引っ張りだして、四人で座れるようにするよ」「先生に、それを言ったの?」「ううん。言ってもしょうがないよ。やり方はすでに決まってるんだもん」

アルネール・ソーレマン（2021）『幼児から民主主義: スウェーデンの保育実践に学ぶ』（伊集守直・光橋翠訳）新評論p.11より

- ・シモンが「ううん。言ってもしょうがないよ。やり方はすでに決まってるんだもん」と言ったのはなぜでしょうか？
- ・あなたの園で同じように考えている子どもはいるでしょうか？
- ・この場面は、日常生活からの民主主義とどのような関係があるのでしょうか？